



写真2 アルツハイマー病のSPECT所見(e-ZIS表示)

療可能な認知症の鑑別診断を行います。

特にSPECT検査での脳の血流低下部位の検討はアルツハイマー病の診断に有用です。すなわち、写真2で示すようにアルツハイマー病では両側の大脳の側頭葉から頭頂葉で脳血流が低下(赤く見えるほど低下が著明)しているのが特徴です。

日本人では片頭痛の患者さんは八百四十万人と推定されており、日常診療の中でも訴えの多い疾患の一つです。片頭痛患者の多くは日常生活に支障を来すような頭痛発作があるにもかかわらず、医療機関を受診している人は非常に少なく、片頭痛患者の半分以上は市販の薬で対処しているといわれています。ひとくちに頭痛といってもたくさん原因があり、治療法はそれぞれ異なります。一人で我慢していないで一度、受診してみたいかがでしょうか。

**高度先進医療、
新しい検査法・治療法など**

大病院の使命として高度先進医療の実践がありますが、当科では厚生労働省から「神経変性疾患のDNA診断(ハンチントン病、球脊髄性筋萎縮症、種々の脊髄小脳変性症、家族性筋萎縮性側索硬化症など)が高度先進医療として承認されています。

神経内科には難治性の疾患が多く治療が難しいという先入観があるかもしれませんが、しかし、アルツハイマー病、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症などの病気にもある程度、有効な経口薬が利用できるようになりました。また、ギラン・バレー症候群などの免疫性疾患には、免疫吸着療法やガンマグロブリン大量静注療法が高い治療効果を示しています。

ボツリヌス毒素療法

「まぶたや目の周りの筋肉がピクピクする」「顔の半分が時々引きつたようにけいれんする」「自分の意志とは関係なく首が曲がってしまうて自由に動かせない」。こうした症状にお悩みの方は「はいしゃいませんか?」これは「眼瞼けいれん」「片側性顔面けいれん」「痙性斜頸」といわれる病気で、命に関わる病気ではありませんが、本人の苦痛は大変なものです。

最近ではボツリヌス毒素療法という新しい治療法が行われています。これは、わずかな量のボツリヌス毒素をけいれんしている筋肉に注射するもので、その効果は劇的です。毒素といいますが危険なイメージがありますが、ごく少量を十分な吟味のもとに使います。また、当科ではこの治療に豊富な経験をもった熟練した医師が治療に当たりますので「安心ください」。